

膨脹式ライフジャケット Q&A

Q1: 手動と自動膨脹機能はどう使い分けるのですか？

弊社膨脹式ライフジャケットには、手動索を引き膨脹する手動膨脹機能とセンサー(スプール)が水分を感知して膨脹させる自動膨脹機能を兼ね備えています。
落水時の姿勢や落ちた状況により、どうしても浸水するまでの時間にバラツキが出ますので、**自動膨脹機能はあくまで補助的な機能とし、お客様の安全を素早く確保する意味で、落水時は手動にて手動索を引き膨脹させてください。**
万が一膨脹装置が作動しない場合は、外装布のマジックテープを外し、左内側の給気チューブより直接口で息を吹き込み気室を膨脹させる事ができます。

Q2: 長年使っていない胴衣があるのですが機能に問題はありますか？

自己点検を行い、消耗品の交換を行ってください。ご自身での点検が不安な場合はメーカー点検を受けてください。

Q3: 店頭で数年置いてあった場合、本体やボンベなどのパーツは大丈夫ですか？

店頭で販売されている新品の状態では、保管状況が安定しているため、経年劣化はほとんど無いと判断しております。次回のパーツ交換の時期は、ご購入頂いてから1年とお考え下さい。

炭酸ガスボンベ・スプール・安全ピンは膨脹させなければ消費期限はありませんが、ご購入後1年を目安に、定期的にボンベセットを交換してご使用頂く事で、お客様の安全を確保する事に繋がると考えております。

* 製品本体裏側のコーションラベルに製造年月が印字されていますが、この印字年月から1年が消費期限やボンベの交換時期ではありません。

2009年発売のPF-2014・XF-2014・AQF-2014・OF-2214モデルには購入年月とボンベ等の消耗品交換時期を記載するスペースがありませんので、ご確認ください。



Q4: 実際に水に落ちたら、何時間くらい浮いていられるのですか？

国土交通省型式承認では、初期と24時間後の浮力を7.5kg以上保つ事が基準となっています。

浮力に気体を使用していますので少しずつ浮力が減少します。構造上減少することを前提とし、初期浮力は約10kgを保有しています。減少した場合は本体左内側にある給気チューブより息を吹き込んで減少を補うことができます。

ちなみに**浮力7.5kg/24時間以上と言う表現は、一般的な成人男性の首から上の頭部**

の重さが約 1 日水面上に浮いていられる浮力の目安であり、落水時にこの浮力が確保できれば 1 日（24 時間）以内に、救助船やヘリコプターなどで発見し救助できると考えられており、この浮力が国土交通省の基準となっています。

Q5:汚れた時など、使用した状態のまま水で洗っても大丈夫ですか？

水感知機能がありますので、そのまま水で洗うと、膨脹装置内に水が入り、センサーが反応して膨脹してしまいますのでご注意ください。
本体生地汚れは柔らかいスポンジ等に薄めた中性洗剤をしみこませて、汚れた部分を拭き取る程度にしてください。
膨らむ部分（気室）の汚れは、自動膨脹装置のポンペ・スプールを必ずはずして真水で洗い流し、日陰干ししてよく乾燥させてください。洗浄後は必ずしたポンペ・スプールを必ず装着し、気室を外装布に収納しご使用、保管してください。
自動膨脹装置周辺は安全の為、水洗いしないで、水を浸した布等で拭き取ってください。**洗濯機で洗ったり、もみ洗いをする、亀裂が入る恐れがありますので絶対におやめください。ドライクリーニング、アイロンがけ、ストーブ等の直接火気の近くで乾燥させると、気室が熱劣化しますので絶対に避けてください。**

Q6:雨や波のしぶきで膨らまないのですか？

センサー（スプール）が水没し感知しますので、基本的に降雨や波しぶきでは膨脹し難い構造になっています。
雨や波のしぶきがかかっても外装布には撥水加工を施し、生地からは水分が浸入しにくい素材を使用していますが、不意にライフジャケット内に水分が浸入してしまい、膨脹装置内に入ってスプールが感知した場合には膨脹してしまうことも考えられますので、**念の為、予備のポンベセット（アフターパーツ）を携行されることをお勧めいたします。**

Q7：釣行後、そのまま車内に置いたまま保管して大丈夫でしょうか？

釣行時にご使用の際に降雨や波等で水分を含み、**そのまま車内や船内等で保管・放置すると、センサー(スプール)が湿気を感じし自動膨脹する場合もございますので**、釣行後は Q5 の答えに沿ってメンテナンス後、保管時・着用しない時は乾燥した場所で管理してください。温度・湿度の変化の激しい環境、紫外線の影響を受けやすい車内や船内、屋外等で保管すると生地脱色・変色・剥離に繋がり、劣化が早まりますので**保管は屋内の日陰で風通しの良い場所で保管してください。**

Q8：海外の釣行時に膨脹式ライフジャケットを持っていきたいのですが問題はありますか？

国内・海外問わず飛行機等ご利用の際は、ご利用の航空会社に予め持ち込み制限や方法についてご確認の上、お持ちください。事前申請や指定の書類等が必要な場合があります。

*炭酸ガスポンペが危険物扱いとなり持込制限となる場合が多いです。あくまでも釣りにご使用を目的としたご自身のライフジャケットであり、それに使用するポンペの中身が Co2（炭酸ガス）である事をご説明されると良いかと思ます。

Q9：ポンベ・スプールの交換の方法がわかりません。

はずし方の手順



ポンベを左にまわして取り外します。



スプールカバーを左にまわして中に入っているスプールを取り外します。



折れた安全ピンが残っている場合は取り除いてください。
(折れていない場合、交換の必要はありません。)



本体がぬれている場合はよく乾燥させた後、装置に付着している水分を拭いてください。特にスプールセット場所付近の水分が残っている場合、膨張してしまう場合がありますのでご注意ください。

再セットの手順



引き手を戻し、安全ピンを差し込んでください。



スプールをセットします。スプールカバーを右にまわして止まるまでねじ込みます。(スピールの上下は関係ありません。)



ポンベを右にまわし、しっかりとねじ込んで装着します。



完成。

Q10：気室の収納方法がわかりません。

収納する前に必ず気室内のエアを抜いて下さい。

【エアの抜き方】

膨脹状態



給気チューブキャップのつばの部分をチューブに差し込むと、逆止弁が押されエアが排気できます。



製品を丸めて最後までエアを抜いてください。



逆止弁に異常が無いことを確認し、キャップをしめて気室を外装布に収納します。

・ネックタイプ収納方法



スプール及びボンベ・安全ピンの再セットを確認してから、膨脹装置に保護カバーを被せます。(保護カバー無い機種もあります。)



側面の気室を表側に3つ折りし、面ファスナーで仮止めします。



気室の角を斜めに折り込みます。



側面を閉じます。(反対側も ~ と同様に行います。)



本体を裏にして、上側気室を斜めに折り、三角形を作って下さい。



三角形を二つ折りにします。



面ファスナーを閉じて下さい。



引き手が出ているか確認して下さい。

引き手



完成。

・ベルトタイプ収納方法



スプール及びボンベ・安全ピンの再セットを確認してから、外装布を下にして置き、気室を半分に折ります。



さらに、半分に折る。



腰ベルトと気室の縫い合わせ部で折り曲げます。



反対側の腰ベルトと気室の縫い合わせ部で折ります。



気室を押さえたまま、外装布で気室を覆うようにマジックテープを止めていきます。中央部から徐々に気室を収納しながら面ファスナーを止めていくと折りたたみやすいです。



引き手が出ているか確認して下さい。

← 引き手



完成。